

会 議 録		令和 4 年 7 月 12 日 作成	令和 8 年 3 月 末 日 廃 棄
会議名	京都府田辺警察署協議会（令和 4 年度第 1 回）		
開催日	令和 4 年 7 月 12 日（火）		
時 間	午後 2 時から午後 3 時 40 分までの間（100 分）		
場 所	田辺警察署講堂		
出席者	松井会長、中坊副会長、吉田委員、山本委員、上辻委員、柳澤委員、村上委員、古谷委員、垣内委員 計 9 人		
	署長、副署長、会計課長、警務課長、生活安全課長、地域課長、刑事課長、交通課長、警備課長、広聴係長 計 10 人		
諮 問 事 項	高齢者の交通事故防止に係る施策について		
会 議 内 容	1 会長挨拶 司会 副署長 2 署長挨拶 3 委員並びに警察幹部紹介 4 協議 司会 副会長 諮問事項説明 高齢者の交通事故防止に係る施策について～交通課長		
	【委員】私の父は80歳を超えて車の運転をしているが、今は健康で認知症などの兆しもないため、運転について問題はない。交通事故防止のために、運転免許証の自主返納も考えないといけないことも理解しているが、父親の現状と運転免許証を返納した後の生活の変化を考えると、父親に対して返納を勧めるのをためらってしまう。 私が居住する地域では公共交通機関が整備されていないため、運転免許証を返納して車の運転ができなくなる事で、生活が一変するという問題がある。今は当たり前のように車で移動する生活をしているが、車を運転できなくなる事で行動範囲が狭まり家に引きこもりがちとなり、それに起因して認知症が進むことも考えられる。田舎になるほど運転免許証の自主返納は難しい問題である。 【委員】私も運転免許証の自主返納を考えているが、自主返納をした知人は		

会 議
内 容

タクシーを使って移動する生活になり、様子を見てると不安を感じる。

【警察】移動手段が車しかない地域では、運転免許証の自主返納は難しい問題である。警察は車の運転に支障のない方にまで自主返納を求める立場にはない。家族や近所の方々など周囲の方が見て「この人の運転は危ない」と感じられるような危険度の高い方に運転免許証の自主返納を考えていただくというのが警察のスタンスである。

今は問題なく車の運転ができている方でも、「万が一交通事故を起こしてしまったら」ということを家族で考えていただき、家族でサポートできるのであれば、運転免許証の早期自主返納を考えていただきたい。

【委員】今年、私の母も運転免許証を自主返納したが、家族が近くに住んでいるため生活もサポートでき、スムーズに返納することができた。しかし、独居の方は運転免許証を自主返納することにより、行動範囲が狭まってしまう。地域ごとに高齢者が集まれるコミュニティを作れるのであれば、元気な高齢者が不自由な方をフォローする居場所ができて、地域としては一番幸せな状態になるのではないかと思う。しかし、地域住民同士のつながりが希薄な現在では、行政や警察、学校が協力して何かきっかけが作れば良いなと考える。

【委員】先ほど、交通課長が説明で使われたパワーポイントは、高齢者施設などで行われる安全教室で使われているのか。運転免許証の自主返納について、受講者の反応はどうか。

【警察】高齢者施設での安全教室でも使用しているが、高齢運転者への啓発ではなく高齢歩行者向けの啓発となっている。

高齢運転者への安全教室では、自主返納も説明しているが、加齢に伴う運転に必要な機能の衰えを補う対策として、サポートカーの説明も行っている。

【委員】最近運転していてヒヤリとしたことが何回かある。片側1車線道路で右折しようとした際、右側後方から走行してきた高校生の乗る自転車とぶつかりそうになった。私は幼い頃から通学で自転車に乗っており、自転車の左側通行について厳しく指導を受けていた。それが当たり前だと思っていたが、最近の高校生は交通ルールを守らない子が多いと感じる。

今回の体験は、私も右左折時の確実な確認について教訓にもなったと思っているが、自転車に乗る高校生などに対して交通ルールの遵守や、運転マナーの向上はできないか。

【警察】自転車と車の交通事故について、すべて車が悪いと思われがちであ

会 議
内 容

るが、自転車の方が違反をしている場合もある。自転車の違反について信号無視や通行禁止場所の通行などは、指導ではなく赤切符処理となる。今後、ご指摘のあった場所での指導取締りを推進し、交通ルールの遵守とマナーの向上を図りたい。

【警察】小学校、中学校での自転車の運転などについての交通安全教室は定期的に実施しており、今後も推進していく。

京都は信号機の無い横断歩道で横断者が待っていても停車しないドライバーの割合が、全国ワースト5に入っていた。これについても、重点的な取締りと啓発活動を推進している。

【委員】最近運転免許証を取得した娘に、狭い道路で行き違う際に、対向車線で待ってもらった相手車両に対してクラクションでお礼の合図をしたことについて、「そんなことでクラクションを鳴らしてはいけない」と注意された。また、違う日に同じように狭い場所で対向車が通行するのを待ってあげたが、そのときの運転手は知らん顔して通り過ぎて行った。ドライバーの運転マナー向上について啓発する機会はないのかと思う。

加えて私は、東北の震災の時に車による給水作業の支援に行った経験があり、その時に感じたのは、被災地の方はすごく親切であった。給水車であったこともあるのだろうが、右折時には対向車が必ず止まってくれ、道を譲った場合は、必ず会釈してくれた。交通ルールの遵守も大事だが、譲り合いの精神で運転することこそが交通事故防止に必要なのではないかと感じた。

【警察】譲り合いに関しては交通マナーというよりも、道徳的な話になると思うが、交通安全教室の際にそのような観点も取り入れたい。

挨拶代わりにクラクションは道路交通法違反となるので、今後は注意していただきたい。

運転中、横断歩道で停車した際に、横断した子どもがお辞儀をしてくれると運転をする側として気持ちがいいものである。これをより多くのドライバーに経験してもらうことで、マナーの向上につながればいいと考える。

5 事務連絡

令和4年度の警察署協議会は、コロナウイルス感染の状況を見極め、第2回は9月頃、第3回は12月頃、第4回は来年2月頃に開催を予定している。

以上

第1回京都府田辺警察署協議会の開催状況

